

# 一粒耕心



## 小なす

「やわらかな皮と抜群の美味しさ」

工藤 幸一さん

(能代市二ツ井町・下田平)

二ツ井町の青々とした木々と米代川の間という、自然の栄養をたっぷり含んだ土地で、30年という長い期間小なすを栽培している工藤幸一さん。収穫のピークを迎える8月中旬から9月上旬にかけて、朝の5時から作業をする毎日です。

現在、工藤さんの圃場では『真仙中長』という品種を栽培しています。1日に20ケース(40kg)を出し、小なす部会の中でトップの出荷量となっています。しかし近年の異常気象などの影響で以前ほど収穫ができない状況です。「病害虫は防除できるが天候ばかりは



防ぎようがない、収量を増やすため試行錯誤の毎日です。栽培している年数は長いですが、常に1年目の気持ちを忘れずに取り組んでいます」と工藤さん。

多くの手間がかかる小なす栽培ですが、だからこそやりがいがあると工藤さんは話します。その思いが詰まった小なすは、瑞々しく美しい鮮紫黒色に仕上がっています。「農業が生きがいで体が動く限り続けます。死ぬまで農業はやめません」と工藤さんは笑顔で話してくれました。



### 経営規模

小なす……………12 a  
 水稲……………3.5 ha